

きいぶ



平成24年（2012年）12月 第83号

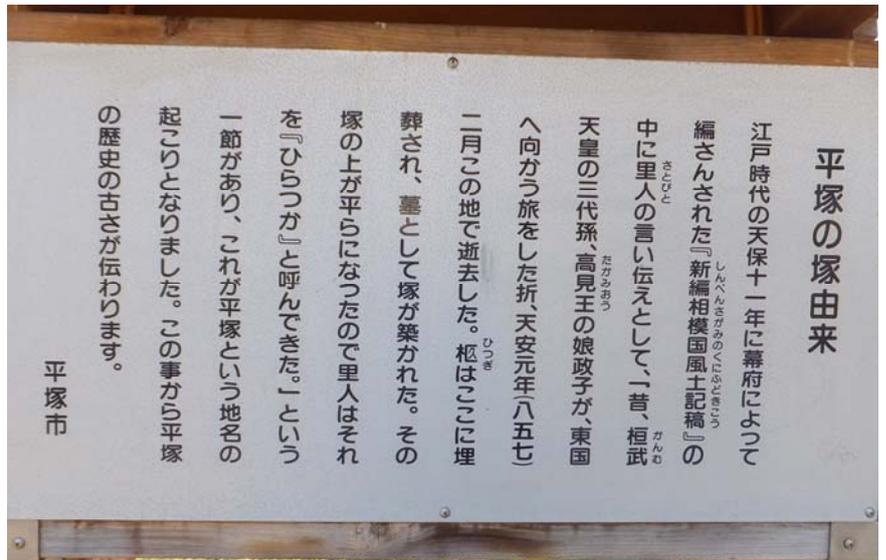
平塚市図書館

平塚市制80周年記念特集

平塚市は平成24年4月1日に市制施行80周年を迎えました。

平塚市は、昭和7年に神奈川県で4番目の市として誕生しました。

「平塚」の地名は、「新編相模国風土記稿」の中に見られます。文中に登場する「平塚の塚」とされる場所は、現在の平塚市平塚四丁目「要法寺」の西隣にあります。

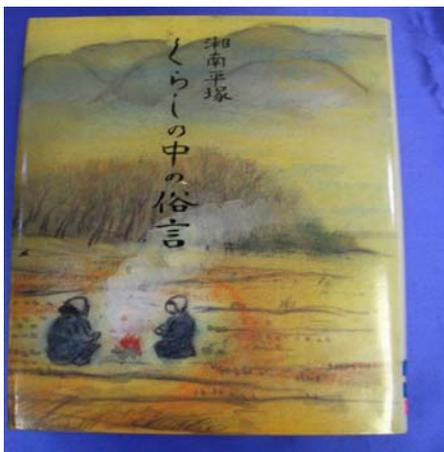


↑（左）平塚の塚の碑

（右）「平塚の塚由来」看板

今回は、平塚の歴史に関連する資料を紹介します。

◎『湘南平塚 暮らしの中の俗言』（臼井 弘／著 稲元屋）請求記号 388.81



俗言は語りかける生きた郷土史といえます。著者がコツコツと市内を歩き回り、採集した平塚の俗言を通じて、古の平塚人たちが形づくっていた地域社会を垣間見てください。

◎『むかしばなし平塚ものがたり』（山中恒／文 稲元屋）

◎『むかしばなし続平塚ものがたり』（今泉義廣／文 稲元屋）



請求記号 こども：388 一般：KY 388.13

昔から平塚に伝わる話を集めた本です。不思議な話、楽しい話、こわい話、かわいそうな話…私たちが住む平塚にも、こんなにたくさんの話が伝わっていたのだと、驚くかもしれません。

お子さんでも読めるように振り仮名がふってありますので、ぜひ、ご家族でお楽しみください。

◎『平塚紀行 「いにしへの町並み 京都と田村・横内」』 DVD：DH0

平塚市の田村・横内地区は、京都の町づくりをモデルにしていた！？

古くから栄えていたこの地域に、京都と同じ碁盤の目のような町並みがあったという説があります。映像では、今もところどころに残るその痕跡が紹介されていて、実際に歩いてみたいくなります。

◎村井弦齋と「食道楽」

村井弦齋は、明治の中期から多彩な著作活動を通して、ユニークな作品を残した新聞記者であり、作家でした。平塚には明治37年から昭和2年に亡くなるまで平塚市浜岳（現在の八重咲町）に居住し、その間、新聞に「食道楽」を連載し、明治のベストセラー小説となりました。この本には、和洋中の600種の料理が紹介され、その調理法や自然食、衛生学にいたるまで書かれています。自らトマトやレタスなどの西洋野菜を栽培し、グルメの元祖といわれ、食の安全と日本人の食生活の改善にも取り組みました。





連載 平塚の寺子屋（上平塚）

平塚市中里にある県立平塚商業高等学校の一角に成器塾せいきじゆくの碑があります。かつてここには、みやざきかくどう宮崎拓堂により設立された「成器塾」がありました。

【成器塾】師匠は、宮崎拓堂。文政2（1819）年加賀国金沢藩士ながのぶの家に生まれ、名は長発ながのぶといい江戸の湯島聖堂で教授していた儒学者・芳野金陵よしのきんりょうに学び、嘉永3（1850）年ころ相模国大住郡中原宿（現在の平塚市御殿）に塾を開きました。その後、江戸下谷仲徒士町したやなかかちまちに移りましたが、文久2（1862）年に請われて再度平塚に戻り、平塚宿上平塚梵天社（現在、平塚市中里の八雲神社）の南東に塾舎「成器塾」をつくり、平塚宿や大磯宿から多くの少年たちきげんが門をたたき漢学を学びました。この中の一人に後に「敬業学舎」を創設した大磯の伊東希元きげんがいました。希元は、拓堂が漢学を教授している様子を七言絶句で以下のように言っています。

「成器陪講筵」	（成器塾 <small>こうえん</small> の講筵 <small>ばい</small> に陪 <small>せき</small> す）
四筵坐定寂無声	（四筵坐を定め寂として声無し）
開闔天人理入精	（開闔 <small>かいこう</small> の天人理精に入る）
也識田夫重礼儀	（また識 <small>し</small> る田夫も礼儀を重んじ）
講経門外折腰行	（講経の門外腰をかがめて行く）

平塚宿の農民たちは、成器塾が開講されている時は、肅々として門前を通ったといわれています。

拓堂夫人は、長持村の田中家から嫁がれたが、嘉永6（1853）年正月に亡くなり、その後、中原宿の武田平兵衛義敬の妹くになが後添として迎えられました。拓堂と、くにとの間に安政6（1859）年8月、璋蔵さんまいが誕生しました。後の小説家・宮崎三昧ほうしゃくゐんです。拓堂は、明治2（1869）年4月5日、51歳で逝去し墓地は上平塚の宝積院にあります。

（参考文献）

『平塚市史』9通史編	平塚市	1990年
『図説平塚の歴史』下	郷土出版社	1994年
『神奈川県史』別編1人物	神奈川県	1983年
『角川日本姓氏歴史人物大辞典』	角川書店	1993年
『西さがみ庶民史録』第4号	西さがみ庶民史録の会	1983年
『広報ひらつか』昭和39年11月		

（「平塚の寺子屋」は今回で最終回です）



郷土資料を探しています

図書館では、平塚市に関する資料（郷土資料）の収集をしております。
平塚市に関する資料、平塚市にお住まいの方が書いた作品などがありましたら、
図書館にご寄贈をお願いいたします。
ご寄贈の際は、事前に中央図書館 参考室へご連絡ください。

ご意見ありがとうございます

図書館内に設置している意見箱に、利用者の皆様からさまざまなご意見をいただいています。内容の一部と図書館からの回答を紹介します。

ご意見	回答
今話題の本・賞をとった本などのコーナーを設けてほしい。	文学賞受賞作は現在「〇〇賞」のラベルを貼っていますが、1ヶ所に集めず分類ごとに分かれています。展示コーナーはいつも多くの皆様にご覧いただいていますので、「文学賞」特集など、月替わりの展示テーマを、より楽しめる内容に工夫していきます。他にも、話題になっているジャンルや人などについて、ミニ展示を随時行っていく予定です。ぜひ展示コーナーをご利用ください。
予約冊数7冊を廃止して、制限を撤廃してほしい。(冊数無制限にしてほしい)	予約は特定の本に集中する傾向があります。1人の方が予約できる数を無制限にすると、人気のある本の予約件数が多くなり、順番待ちの期間がこれまで以上に長くなってしまふことが予想されます。また、できるだけ多くの方に借りていただきたいことから、貸出冊数にも制限は必要と考えております。そこで予約数が無制限になった場合、借りられる冊数以上の本が確保されてしまい、その結果確保中(用意ができて貸出を待っている状態)資料の数が増え、予約の順番を待つ期間がさらに長くなってしまいます。こうした理由から、予約件数には制限を設けております。
家のパソコンなどから、図書館にない本のリクエストができるようにしてほしいです。	図書館に所蔵のない資料のリクエストは、現在窓口で受付しています。受付時に、その本が発売されているか、内容が同じなら出版社や版数が違ってもかまわないか、などお尋ねすることがあるためです。所蔵のない資料のリクエストのインターネット受付については、今後の課題として検討させていただきます。
人気が高い週刊誌・月刊誌は閲覧中が多くなかなか読めません。前週号・前月号も殆どは貸出中です。例えば週刊誌は1ヶ月、月刊誌は2～3ヶ月の貸出禁止を希望します。	人気のある週刊誌・月刊誌は、最新号を閲覧される方も多く、貸出を希望される方もたいへん多いため、次の号が発売されるまでに予約が入っています。次の号が発売した後もしばらく貸出禁止とした場合、予約の方が待つ期間がさらに長くなりご迷惑をおかけしてしまいますので、貸出禁止期間を設けることは困難です。また、最新号の閲覧は1人1冊ずつでご協力をお願いしています。閲覧を希望される最新号がなかなか戻ってこない際は、お読みになっている方にお声かけいたしますので、職員にお知らせください。

メールでのお問合せは、ホームページの中にある「お問合せ」のフォームでお送りください。

中央図書館
〒254-0041
浅間町 12-41
Tel 0463-31-0415
Fax0463-31-9984

北図書館
〒254-0013
田村 3-12-5
Tel 0463-53-1232
Fax0463-53-1261

西図書館
〒254-0911
山下 760-3
Tel 0463-36-3555
Fax0463-36-7230

南図書館
〒254-0813
袖ヶ浜 20-1
Tel 0463-21-3080
Fax0463-21-5181

ホームページ: <http://www.lib.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>

きいぶ 83号 編集・発行 平塚市中央図書館 発行日 平成24年12月1日